

かしの木

第13号

社会福祉法人
せたがや榎の木会
機関誌第13号

2013.5 発行

「シンフォニー榎の木」

第2楽章

理事長 鈴木 昭雄

本年四月から、私も榎の木会を管理・監督する「所轄庁」が、東京都知事から世田谷区長に変更されました。

これは「地域の自主性及び自立性を高めるための改革」の一環として実施されるもので、平成十二年の社会福祉法の施行以来社会福祉の主流となってきた「地域福祉」に関する行政側の体制整備が一段と進んでいくものと期待されます。

さらに、世田谷区を拠点として実績を積み重ねてきた当法人としては「身近になった所轄庁」と緊密な連携をとりながら事業運営の充実を図り、名実ともに「新しい公共の一端を担う事業主体」（当法人の「設立趣意書」となっていく絶好の契機と捉えたいと思います。

例えば、昨年十月に発足した「相談支援センター・あい」では、多くの関係者にご協力いただきながら、ソーシャルワークの機能を十分に生かした地域福祉の実践に取り組

んでいかなければなりません。

また、目下の最大課題である「上町プロジェクト」（注1）についても今まで蓄えてきた法人の実力を全て出し切る覚悟で、施設整備事業計画の立案作業を進めていきたいと考えています。

マネジメントの父として『非営利組織の経営』など多くの著作を残したドラッカーは、オーケストラの向こう側に「未来の組織」の姿（高度にマネジメントされた組織）を見ていた（注2）と言われます。

その著書で述べている、『非営利組織は一人ひとりの人と社会を変える存在である』したがって、考えるべきは『ミッション』についてである」とか、「経営管理者の役割を『オーケストラの指揮者』になぞらえて『投入された資源の総計を超えるものを生み出さなければならぬ』」など、ドラッカーの考えには啓発されることが多々あります。

当法人が既存事業の充実・活性化を図ると同時に、新規事業へも果敢にチャレンジしていくに当たって不可欠な心構え・考え方を学ぶこと

ができます。

「シンフォニー榎の木」・第2楽章のテーマは「地域福祉への貢献」で速度はアレグロ（速く）・マ・ノン・トロップ（しかし過度でなく）でと思っております。

（注1）老朽化が進んでいる上町福祉作業所の建物を解体し、その跡地に当法人が新しい建物を建設して利用定員の増加を図るとともに、グループホームとショートステイのための施設を新たに整備しようとする計画

（注2）「ドラッカーとオーケストラの組織論」（山岸淳子、PHP新書）



地域生活の新たな拠点を目指して

上町福祉作業所

所長 北川 友幸

昭和六十二年四月、養護学校に通う生徒さんの卒後の受け皿のひとつとして、親の会運営による民営作業所、第四白梅福祉作業所が多

方々の尽力によって開設されました。当初は会員のご自宅の一部をお借りしての運営でしたが、平成七年に世田谷区所有の施設に移転し、上町福祉作業所と名を変え、法人運営による障害福祉サービス事業所となった現在に至るまで活動を行なっています。

この施設は私たちが使用を開始する以前から、等々力希望の家（等々力福祉園→奥沢福祉園の前身）や北沢福祉作業所（大原福祉作業所の前身）が使用するなど、知的障害者の日中活動の拠点として機能してきました。

しかし、昭和五十三年の竣工から三十年が経過する頃から、軽量鉄骨（プレハブ）造の建物に、老朽化に伴う不具合が頻発しはじめました。作業所からも、ご家族からも、親の会の皆様からも、区に対して建て

替えの要望を事ある毎に届けてきましたが、願いを請け入れて頂くことは叶いませんでした。

きっかけは東日本大震災でした。未曾有の災害を目的の当たりにして、建物に対する不安は急速に高まっていきます。

耐震調査にて安全性は確保されていますが、老朽化し、薄い壁や床で構成された躯体が「次」も耐えられないのか。利用者の皆様に、安心して活動に取り組める場を提供する立場の私たちにとって、疑念は止みませんでした。

また、自立した生活を送る上での選択肢となり得る居住の場の整備が、区内においては需要に対して不足しているという状況にあります。「短期入所を利用したいのに既に予約で埋まっている」こうしたお話を伺うことも多々ありました。



そして昨年五月、現施設の建て替え、併せてグループホーム・ケアホーム、短期入所の整備を、国庫補助等を活用した自主財源によって実施する意向を、法人から世田谷区に申し入れました。

庁内にて半年近い検討がなされた後に提案が請け入れられ、新しい施設の整備計画に着手する事となりました。

新しく生まれ変わる施設は、上町福祉作業所の定員を現状の二十名から二十五名に増員し、グループホーム・ケアホームは五名、短期入所は二名を定員として、平成二十七年秋の開設を計画しています。

現在は七月頃の施設整備補助事業の申請に向け、整備検討チームを中心に事業計画策定等の準備作業を進めている段階です。

作業所のある一帯は「ボロ市」で知られるように、中世の頃から城下町、宿場町として栄えてきた歴史ある地です。

作業所利用者の方々にとっては、より安全に、より安心して活動に取り組むことの出来る場が、家族の下から独立した生活を望む方々にとっては、住み慣れた世田谷での暮ら

しの場合、この上町に新たに生まれる事になります。

この町で、障害のある方々が、日々の生活を通じて、それぞれの想いを叶える為の拠点となるよう、誠心誠意準備を重ねて参りたいと思います。

世田谷区手をつなぐ親の会

知的障害者の権利を守り、
教育と福祉の充実を目指し活動しています。

☆ 新しい事務所へ移転しました。

〒154-0022 世田谷区梅丘 1-24-14

フリート梅丘 301

TEL 03-3706-0067

FAX 03-3706-0246

URL : <http://oyanokai-setagaya.com>

防災対策検討委員会中間報告

委員長 吉田 快永

防災対策検討委員会は、昨年十月三日に設置されました。法人内の事業種別も多様化していますので、各事業にもれのないような委員会の構成になっています。検討事項としては、「大規模な地震発生時に、本法人が対応すべき統一基本方針をまとめる。世田谷区二次避難所指定事業所の対応について共通指針を作成する。その他、理事長が諮問する事項についての検討。」ということになっています。

十一月から委員会で検討を始め、まずは災害備蓄品の整備が必要であると考え、防災士の意見をいただきながら、法人としての備蓄品リストを作成し、各事業所の備蓄品確認と不足品の購入を進めているところです。備蓄品に関しては、本年四月に施行された「東京都帰宅困難者対策条例」をふまえ、各事業所の利用者さんだけではなく、職員についても三日間事業所に留まることができない数量を目安としています。

そして現在は、大規模な地震等発生時の基本方針から防災マニュアル

ルの作成にむけて検討を行っています。防災マニュアルも、堅苦しい文書で構成され、実際の災害発生時には役に立たないようなものではなく、現場で働く（動き出す）職員が分かりやすく、利用者さん・職員が共に、できるだけ安全にかつ安心して災害に対応できるマニュアルとなる事を目指しています。

いつ発生するかもしれない災害についての対策ですので、できる限り早く対策の最終報告を行えるようにします。

平成二十五年度の研修計画

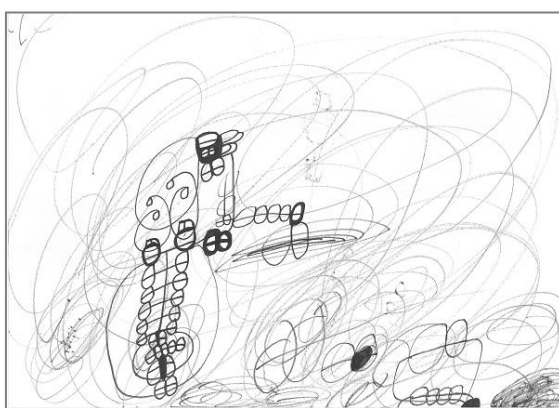
研修委員長 村瀬 精二

平成二十四年度の掉尾を飾るセミナーが三月二十七日、七十名弱の参加者を得て、わくわく祖師谷で開催されました。駒澤大学、佐藤光正先生に「本人をどう捉えるか」と題して一時間半のお話をいただき、その後、茶話会形式で多くの職員の感想を聞き、佐藤先生から補足を、理事長に激励とまとめをいただきました。個別支援計画を立案している最中の研修であり個別性に着眼するタイムリーなセミナーでした。

また平成二十五年度の研修計画が立案されました。新に五年次までの若手の年次別研修が組み込まれ、これで法人独自の研修が六月の新人研修、六月から経年の現場研修会春と冬の外部講師を招いてのセミナーと四本立てで構成されます。

新企画の年次別研修は十事業所に分かれている現場の職員を同期生の視点で仲間として括り、法人の次の世代を担う職員に育って欲しい、との思いです。これには各所長を講師として議論のリードを託し、若手もベテランとともに歩んでいく法

人の土壌作りを意図しています。皆さんのご意見をお聞きしながら充実した研修制度にと願っております。



児童デイサービスセンター
プレイ&リズム希望丘のみ
なさんから本紙へ5点の絵を
提供していただきました。
ありがとうございました。

利用者さんの ひとことこーなー

☆下馬福祉工房☆

作業で仕事がばってたくさんやります。みんなとへともだちになります。みんなにたよりにされる大人になります



はたちになりたいです。
はたちになったらおまげのみたいです。
おおきくなりたいです。せわのびみたいです。
はたちになったらゼールのみたいです。
けっこんしたいです。
あたまにいけたいです。
おおきなバスでいきたいです。



「わくわく祖師谷のあした」

わくわく祖師谷

施設長 堀田 和子

平成二十一年十一月に開所して三年半が経ちました。当初十五名だった利用者も二十五年度は六十五名になり、職員は三十二名、講師三名、総勢百名の大所帯の事業所になります。そこで、生活介護に加えて就労継続B型もグループ分けをし、多様な活動を取り入れることにより支援内容の充実を図り、多機能ならではの相乗効果を発揮していきたいと考えています。例えば、音楽療法・美術・ダンスの講師の他、各職員の特技や前職、経験を生かした活動を行ない、製造・販売・ビル清掃も充実させ工賃アップを図りたいと思います。パン教室も所内から地域の方々へと広げていき、障害者理解と啓蒙、さらには人的資源へとつなげていければと思います。

一方で、一人一人の支援については、相談支援事業所と連携して、サービス等利用計画に基づいた個別支援計画作成やモニタリング・カンファレンスを定期的、あるいは必要に応じて行なっていくことでの確

な支援を目指したいと考えています。どうぞ、いつでもご見学ください。できたてのパンもご用意しております。

「会社訪問」

用賀福祉作業所

前所長 水戸 都紀子

二月十九日、小雪が舞って寒かった日。

みんなが楽しみにしていた「グループ別所外活動」がありました。

私が参加したグループは、作業所に和菓子の紙箱折りの仕事を発注してくれている「平石紙器工業株式会社」に行きました。会社は、駒沢大学駅から北側に歩いて数分の住宅街の中にあります。

専務さんからいろいろな機械について説明を聞いた後、専務さんが今まで集めた珍しい紙箱の数々を見せてくれました。その時、専務さんが紙箱のことを本当に大切に思っているんだなと思いました。

そして、小さな紙箱にきれいな紙を貼り付ける体験をやらせていただきました。ぴったり貼り付けるのは意外と難しく職員も一緒に苦心

しながら取り組みました。

専務さんは出来上がった箱に和菓子を入れてお土産にしてくれました。

みんな大喜び！！ これからも箱折りの仕事をていねいにがんばろうと思いを強く持ちながら家路につきました。

「自主生産に想う」

喜多見福祉作業所

所長 川名 あき

クッキー作りを始めて十五年、「楽しく作ればおいしくなる」だった合言葉は、「クッキーでみんなとつながろう」に変化しました。作業

所の内から外へ、昨年度から徐々に利用者さんと街へ出てみて、皆さんまだ知的障害のことを知らないんだなど感じます。作業所で、こんなに生き生きと自分らしく働いているのに、その世界観を発信するのを怠っていたんだなど反省もしています。

知的障害のある人が作ったものには、オリジナリティはもちろんのこと、「ひとりでは難しいけれど、仲間と助け合えばできる」という強

いメッセージが込められています。それを地域の方感じてもらうのが、自主生産を行う醍醐味ではないでしょうか。

今年度は、手作りのワゴンに焼き菓子を乗せて利用者さん自らが販売し、二十箇所の納品先にも利用者さんと一緒に配達に出かけていきます。そこでのふれあいを通してみんなの魅力が伝わり、地域の方から「作業所の人」ではなく、「○○さん」と名前で呼んでもらえるような関係になればと思います。その関係は、今後グループホームを作っていく際にも、きつと重要な役割を果たすことでしょう。

異動のご挨拶

法人本部

事務局長 水戸 都紀子

この度、四月一日、法人本部の事務局長に着任いたしました。

大先輩である、佐藤前局長の後任として担当することになり、身の引き締まる思いを強くしているところです。

前職場の用賀福祉作業所では、日々の作業や多様な行事など、利用者

・ご家族・職員の皆様のご協力のお蔭で楽しく過ごさせていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

一年間の短い期間でしたが、小規模事業所のメリット、また民営作業所として運営上の厳しい事情などいろいろなことを体験的に学ぶことができました。これらの経験をこれから十分活かしていくべきと考えております。

平成二十五年、せたがや檜の木会は、設立十二年目に入りました。

檜の木は、名前のとおり材質が非常に堅く、粘りがあり、耐久性に優れているそうです。せたがや檜の木会が、さらに強い粘りのある法人となるよう、努めていきたいと思っております。

皆様方のご指導・ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

用賀福祉作業所

所長 伊能 亮

四月より用賀福祉作業所に所長として就任いたしました伊能と申します。

十一年前、私が初めて福祉の仕事に就いたのが用賀福祉作業所の前身である奥沢福祉作業所でした。それから二年間お世話になりました。

そのことを学ばせて頂きました。ですから用賀福祉作業所は私の福祉人生の原点ということですよ。

久しぶりの用賀のお仲間との再会では「よお伊能さんどうしたの？」「久しぶり」と声をかけて頂きホッとしました。同時に、初心に帰り何を大事にするのかをしつかり考えていかなければと身が引き締まる思いです。

働く場であること、みなさんが大人であることを常に意識し、お一人おひとりが安心と自信を持って前向きに過ごせる場として、用賀をより良くしていきたいと考えております。

そして、通われているみなさん・ご家族と一緒に用賀が積み重ね、作り上げてきた歴史を大事にしながら、用賀のみなさんの素敵な魅力が地域の中に広めていきたいと思えます。

新任所長で何かとご迷惑をおかけすることもありますが皆様のご指導をよろしくお願い申し

上げます。

用賀名物、幸せ色のフラワーボンボン、オリジナル模様のステンシル製品もぜひ一度お手にとってみてください。

退任のご挨拶

法人本部

参与 佐藤 勝

本年三月末日をもって事務局長を退任いたしました。

せたがや檜の木会の皆様にはこれまで長年にわたりお世話になりました。感謝しております。本当にありがとうございます。

仲間の皆さまには感謝の気持ちで一杯です。

手をつなぐ親の会の皆様には、長年の懸案であったグループホーム・ショートステイ事業を自分たちで創ったせたがや檜の木会が開設するという夢の実現も見えてきました。

私にとっても、ご要望の親亡き後対策の最重要課題であるグループホーム等の建設は何としても叶えたい課題でした。幸い世田谷区の協力を得て、上町福祉作業所の建て替え併設方式による新規建設の見通しも立ち嬉しい限りです。

実現までにはまだ困難も続くかと思いますが関係者のご尽力に期待しております。

思い出は尽きませんが、皆様のご健勝を祈念しご挨拶・御礼を申し上げます。



一緒に仕事し支えてくれた職員

職員異動のお知らせ

人事異動

法人本部 事務局長 水戸都紀子

(前用賀福祉作業所 所長)

用賀福祉作業所 所長 伊能 亮

(前下馬福祉工房 主任)

下馬福祉工房 支援員 甲斐 実

(前千歳台福祉園 支援員)

下馬福祉工房 主任 齋藤由子

(昇任)

新規採用

千歳台福祉園 加藤臨太郎

千歳台福祉園 影山 良寛

千歳台福祉園 杉山 安美

わくわく祖師谷 目黒 優奈

わくわく祖師谷 廣瀬 伸孝

わくわく祖師谷 青木 彩

プレイ&リズム 平野 遼

退職

法人本部事務局長 佐藤 勝

千歳台福祉園 重岡 敦子

わくわく祖師谷 佐藤 綾

わくわく祖師谷 青野千寿佳

～編集後記～

下馬福祉工房からスタートした「利用者さんのひとことコーナー」これからどんどんバトンをつないでいきますので、期待してくださいね。

編集発行 千155-0033

社会福祉法人せたがや檜の木会

東京都世田谷区代田1-29-5

TEL 03-5481-1010

FAX 03-5787-4051

E-mail setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp

URL : http://kashinokikai.net

編集委員

佐藤 水戸 伊藤 山口 大瀧 齋藤 小野